

# 稲作生産情報第4号

令和元年6月21日  
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

- 生育は順調です！ 有効茎数を確保したほ場では中干しを徹底しよう！  
○ カメムシ被害を防ぐため、地域ぐるみの草刈りをしっかり行おう！

## 1 県生育観測ほの生育状況

田植後の活着及び初期生育とも順調で、6月20日現在の生育は、草丈は平年並、茎数及び葉数は平年を上回った。

表1 6月20日現在の生育状況

品 種 名	地 域 (地点数)	草 丈(cm)			株当たり茎数(本)			葉 数(枚)		
		本年	平年	平比	本年	平年	平比	本年	平年	平差
つがるロマン	津軽(7)	35.5	36.2	98	16.9	12.0	141	8.1	7.8	+0.3
	県南(1)	32.9	37.0	89	19.0	13.8	138	7.8	7.8	±0
	全県(8)	35.2	36.3	97	17.2	12.2	141	8.1	7.8	+0.3
まっしぐら	津軽(6)	41.3	41.7	99	18.2	11.2	163	8.0	7.2	+0.8
	県南(5)	43.0	40.2	107	16.4	10.6	155	7.8	7.2	+0.6
	全県(11)	42.1	41.0	103	17.4	10.9	160	7.9	7.2	+0.7
ほっかりん	下北(1)	37.1	36.4	102	8.9	9.7	92	7.0	6.3	+0.7

注 平年値は調査地点により異なり、「つがるロマン」が過去4～23か年、「まっしぐら」が過去7～14か年、「ほっかりん」が過去8か年の平均値

## 2 農林総合研究所作況田の生育状況

6月20日現在の生育は、黒石の「つがるロマン」は茎数が少なめ、十和田の「まっしぐら」は順調である。

表2 6月20日現在の生育状況

場 所	品 種 名	草 丈 (cm)				株当たり茎数 (本/株)			
		本年	平年	平比	前年	本年	平年	平比	前年
黒石	つがるロマン	38.4	36.3	106	35.1	15.7	17.5	90	16.5
十和田	まっしぐら	43.4	(43.9)	-	(41.0)	19.3	(15.4)	-	(14.9)

場 所	品 種 名	1 m <sup>2</sup> 当たり茎数 (本/m <sup>2</sup> )				葉 数(枚)			
		本年	平年	平比	前年	本年	平年	平差	前年
黒石	つがるロマン	333	370	90	350	7.8	7.6	+0.2	7.5
十和田	まっしぐら	376	(327)	-	(316)	-	-	-	-

注1 黒石は(地独)青森県産業技術センター農林総合研究所作物部、十和田の本年は相坂の現地ほ場、平年と前年は旧藤坂稲作部の作況試験のデータ

2 移植日は、黒石が5月20日、十和田が5月15日、m<sup>2</sup>当たり栽植株数は、黒石が21.2株、十和田が19.5株

3 平年値は、黒石「つがるロマン」は前12か年の平均値

(参考) 6月10日～19日の気象

項目	黒石アメダス			十和田アメダス		
	本年	平年	年差・比	本年	平年	年差・比
平均気温 (°C)	16.7	17.4	-0.7	15.5	16.3	-0.8
最高気温 (°C)	21.5	22.2	-0.7	20.7	21.1	-0.4
最低気温 (°C)	12.1	13.3	-1.2	10.0	12.0	-2.0
日照時間(時間・%)	67.7	59.8	113	63.8	52.2	122

## これからの農作業と管理

### 1 水管理

- (1) 温暖な日は3 c m程度の浅水にして水温と地温の上昇を図り、気温の低い日は5～6 c mのやや深水で保温し、茎数の早期確保に努める。
- (2) 「日中止水、夜間かんがい(夕方又は早朝に入水)」の基本を守り、できるだけ水温の上昇を図る。
- (3) 土壌還元による「わき(ガス)」が発生している場合は、一時落水や水の入れ換えを行う。
- (4) 中干しは、1株当たり20本程度の茎数を確保した水田では、天候の良い日を選んで行い、生育遅れの水田や低温が続く場合には行わない。
- (5) 中干しを行う場合は、田面に軽くひび割れが入る程度とし、低温に弱くなる幼穂形成期前には必ず終了する。なお、中干し中に低温が続くことが予想される場合は、直ちに中干しを中止して入水する。
- (6) 水はけの悪い水田で中干しを行う場合は、効果を高めるため、5 m程度の間隔で溝切りを行う。

### 2 病虫害防除

#### (1) 斑点米カメムシ類

斑点米カメムシ類(アカヒゲホソミドリカスミカメなど)の発生密度を抑制するため、7月中旬までに畦畔や水田周辺の雑草地などの草刈りを地域ぐるみでしっかり行う。

#### (2) いもち病

ア 補植用の苗を畦畔や水田内に放置していると葉いもちの発生源となるので、速やかに処分する。

イ 葉いもちの初発生は、例年7月上旬頃からみられることが多いので、発生状況に十分注意し、病斑が見つかり次第、防除を徹底する。

ウ 葉いもちが例年発生する水田や抵抗性の弱い品種では、予防剤による防除を基本とする。

エ 予防剤による防除を行った水田でも、葉いもちの発生がみられた場合は、4～5日ごとに成分の異なる茎葉散布剤による追加防除を行い、穂いもちの伝染源となる上位葉での発病を抑えるよう努める。

### (3) イネドロオイムシ

食害が多くなると稲の生育が遅れるので、発生が多い水田では、茎葉散布剤や水面施用剤で早めに防除する。

## 3 雑草防除

(1) ホタルイ、コナギ及びアゼナなどの一年生雑草やオモダカ、クログワイ及びシズイなどの多年生雑草が多く残っている水田では、バサグラン粒剤・液剤及びその混合剤を散布する。

(2) ノビエが多く残っている水田では、ノビエが4葉期までであれば、クリンチャー1キロ粒剤、ヒエクリーン1キロ粒剤、ワンステージ1キロ粒剤、5葉期まではクリンチャーEW、ノビエに加え広葉、多年生雑草も残った水田では、ノビエ4葉期まではヒエクリーンバサグラン粒剤、ノビエ5葉期まではクリンチャーバスME液剤、ワイドアタックSCが効果的である。

(3) 多年生雑草やノビエ等の発生量が少ない水田では、拾い草をする。

## 4 復元田の管理

ブロックローテーションなどで水稻栽培に復元した水田では、土壌窒素の発現量が多くなるため、過繁茂による倒伏や病害虫の発生のほか、有機物が多い場合は根腐れを起こすことがあるので、1株当たり20本程度の莖数を確保したら、積極的に中干しを行う。

### ～農業保険（農業共済及び収入保険）への加入について～

自分にあったセーフティネットに加入し、農業経営に万全の備えを！

#### ○農業共済

「農業共済」は、自然災害等により農作物・家畜・園芸施設に損害が生じた場合に補償される制度です。

#### ○農業経営収入保険

令和元年から始まった「農業経営収入保険」は、自然災害に加え、農産物の価格低下などにより販売収入が減少した場合に補償される制度です。加入には、青色申告の実績が条件となっています。

※詳しくは、お近くの農業共済組合にお問い合わせください。

### ~~~~ みんなで防ごう！カメムシ被害 ~~~~

斑点米などで品質を落とさないよう、7月中旬までに、地域ぐるみで畦畔や水田周辺の遊休農地などの草刈りを行い、カメムシ被害を防ごう！

### 青森県農薬危害防止運動実施中！（5月1日～8月31日）

- 1 農作物や使用者の安全のため、農薬は使用基準を守って使用しましょう。
- 2 農薬散布の際は、周辺に農薬を飛散、流出させないようにしましょう。



連絡先 農産園芸課稲作振興グループ  
県庁内線 5075・5074  
直通 017-734-9480

◎ 次回の稲作生産情報の発行予定は7月4日（木）です。